

2021 年第 2 四半期決算説明会における主な質疑応答

(2021 年 7 月 30 日 (金)、電話会議)

Q 1 上期の営業利益率については事業別の内訳を教えてください。

A 1. ディスプレイ事業の営業利益率が全社平均を大きく上回っています。生産性改善効果に加えて、販売数量の増加、価格の上昇があったことによるものです。ガラスファイバについては物流コストの上昇や米国拠点の損益改善の遅れにより営業利益率は全社平均を下回る状況です。電子部品については 20%を超える利益率を維持しています。

Q 2. 物流費や原燃料費は今後どの程度上昇するのか教えてください。

A 2. 物流費については、当社負担分として下期は前年比で 30 億円程度増加する見込みです。原燃料費については、年間で前年比 20 億円程度増加する見込みです。

Q 3. 物流費が大幅に上昇しているとのことだが、価格への転嫁は可能か。

A 3. 現在、お客様とは交渉を進めています。既に一部をお客様にはご負担いただいています。

Q 4. 物流費等のコストアップ要因がある一方、通期業績予想を据え置いているのはなぜか。

A 4. ディスプレイ、ガラスファイバを中心に市況は非常によいこと、生産性も上がってきていることで、ある程度はコストアップ要因を打ち消すことができると見込んでいます。売上高予想については、少し保守的に見ている部分はあります。

Q 5. ディスプレイ事業について需要やガラス価格についてどのように見ているか。

A 5. 需要については今の状況が大きく変わることはないと考えています。サプライチェーンにも在庫が溜まっているということはなさそうであり、販売数量も安定して推移し、価格下落もないものと考えています。

Q 6. ディスプレイ事業の年間成長率を教えてください。

A 6. 今年はディスプレイのマーケットは前年比 10%程度の数量成長と想定しています。当社はそれを上回る伸びを見込んでいます。

Q 7. 新型コロナウイルス感染症についてマレーシアでは生産活動に影響は出ていないか。

A 7. マレーシア政府の指示の下で出勤人数を制限しながら生産を継続していますが、大きな影響はありません。

Q 8. ガラスファイバ事業について、欧米拠点の赤字はいつ頃解消されるか。

A 8. 欧州拠点については、今年損益トントンまで持っていくことができると考えています。米国拠点については、生産にまだ課題があり今年も赤字が残る見込みです。来年には損益トントンになるべく取り組んでいきます。

Q 9. 期末配当を増配した理由を教えてください。

A 9. 当社は安定配当を方針としており、基本的には減配をすることは考えていません。このような中、足下の業績や今後の見通し、キャッシュの状況等を踏まえて増配を決めさせていただきました。

Q 10. 自社株買いについてはどのように考えているか。

A 10. 株主還元はどのような方法がよいか常に検討しています。自社株買いについても弾力的に行いたいと考えています。

Q 11. 現在開発中の全固体ナトリウムイオン二次電池の優位性を教えてください。

A 11. ナトリウムはリチウムと異なり資源量が豊富である点です。性能向上の開発を進め、2025年に自動車分野等への市場投入を目指しています。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。